



東地中海地域ニュース

イスラエル：中東和平・ブッシュ米大統領中東歴訪を開始 (1月9-10日付現地紙他)

ブッシュ米大統領は9日、イスラエルを訪問し、8日間にわたる中東歴訪を開始した。米大統領としては10年ぶりとなるイスラエル・パレスチナ自治区訪問で、中東和平交渉の推進の他、サウジアラビアなど穏健派アラブ諸国5ヶ国を回って「イラン封じ込め」を通じた中東安定化戦略への取り組みに理解と協力を求める模様。

1. ブッシュ大統領は、ベングリオン空港到着後、「我々はここ聖なる地で、平和に向けた新たな機会に遭遇している」と述べ、中東和平推進に意欲を示した。10日にはヨルダン側西岸のラマッラにあるパレスチナ自治政府議長府を米大統領として初めて訪れ、アッバス議長らと会談する。
2. 9日、エルサレムで行われた米・イスラエル首脳会談後、米・イラン関係について、米国のハドレー大統領補佐官は、「我々の権益を守るためにはあらゆる選択肢がある」と述べ、ホルムズ海峡で6日に起こったイラン革命防衛隊の高速艇が米艦船に近づき、爆破を警告した事件について、そのような挑発行為は止めるべきであり、イランが米艦船を攻撃した場合には重大な結果をもたらすことになる」と述べた。
3. 8日にはエルサレムで、米・イスラエル首脳会談に先立って、オルメルト首相とアッバス議長の首脳会談がイスラエル・パレスチナ交渉チームを交えて2時間以上行われた。オルメルト首相とアッバス議長は、今後2週間ごとに交渉チームの代表者によって中核的議題が協議され、その他個別の委員会と協議が行われることに合意した。